

成績通知書の見方と単位修得について

前期と後期の期末試験終了後に成績が確定したら、修得した成績を記した「成績通知書」を保護者宛に送付します。
成績評価、出席状況についてご家族で確認のうえ、単位の修得状況の把握をお願いします。

■科目について

- ・科目の種類
 - 教養基礎科目：大学教育の基本となる科目です。主に1～2年次に修得し、専門教育科目を学ぶための基礎を学びます。
 - 専門教育科目：各学科ごとに異なる専門分野の科目です。主に2年次より始まります。
 - 教職に関する科目：教員免許を取得希望の学生が取得する科目です。
卒業単位数には含まれないため、教員免許取得を希望する学生はかなりの学修が必要となります。

■成績・出席評価について

成績評価については下表のとおり分類されています。

【成績評価について】

評価	区分	GP	評価内容	
S	合格	4.0	特に優れた成績を表す (Excellent)	※GPは成績評価を点数に置き換えたものです。特待生判定等に利用されます。「R」と「W」評価はGPの対象にはなりません。 ※成績評価「D」は、その時点で最終評価が確定していない再試験対象者です。再試験の結果、合格「C」、不合格「E」のいずれかとなります。 ※「*」はその時点で未評価科目です。通年科目または学期末付近での集中講義など何らかの事情で成績評価ができていない科目です。
A		3.0	優れた成績を表す (Very Good)	
B		2.0	妥当と認められる成績を表す (Good)	
C		1.0	合格と認められる最低限の成績を表す (Satisfactory)	
D	保留	—	再試験受験可能	
E	不合格	0.0	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す (Failure)	
W	履修中止	—	履修を中止した科目を表す	
R	認定	—	認定された科目を表す	

本学では講義時に出席を取っています。欠席回数が講義回数の3分の1を超えると期末試験の受験資格がなくなり、単位修得不可となります。また、やむを得ない理由(病気等)による欠席の補填(認定出席)と欠席回数が合わせて講義回数の2分の1を超えても単位修得不可となります。まずは講義に出席することが第一です。

【出席評価について】 出席状況に応じて5段階で評価を表しています。

評価	出席率(%)	出席回数目安 (15回授業の場合)
A	85%以上	13～15回
B	85%未満～64%以上	10～12回
C	64%未満～35%以上	6～9回
D	35%未満～14%以上	3～5回
E	14%未満	0～2回

日本文化大学 工学部 航空宇宙工学科 宇宙システムコース
学籍番号 ○○○○ ○○○○
氏名 文理 太郎
平成28年 ○月 ○日

成績通知書

科目名	単位	年次	成績評価	出席状況	科目名	単位	年次	成績評価	出席状況	科目名	単位	年次	成績評価	出席状況
【教養基礎科目(必修)】					新機軸論	2	1	A	A					
情報リテラシー1	2	1	E	B	教育原論Ⅱ	2	2	E	C					
英語1	2	1	S	A	教育心理学	2	2	S	A					
入社力基礎	2	1	C	B	教育活動	2	2	*	*					
文書処理基礎講座	2	1	B	A										
社会参画入門	2	1	A	A										
社会参画実習1	1	1	A	A										
社会参画実習2	2	2	A	A										
座学一歩の歩み	2	2	S	A										
【教養基礎科目(選択)】														
英語2	2	1	S	A										
英語3	2	2	S	A										
生涯スポーツ指導	1	1	A	A										
方算リテラシー	2	1	A	B										
【専門教育科目(必修)】														
微分積分1	2	1	S	A										
微分積分2	2	1	S	A										
線形代数1	2	1	S	A										
線形代数2	2	1	B	B										
力学基礎	2	1	A	A										
航空工学概論	2	1	C	B										
宇宙工学概論	2	1	A	A										
材料力学基礎	2	2	C	A										
熱力学	2	2	S	A										
流体力学	2	2	S	A										
工学実務基礎	2	1	A	A										
CAD基礎(作図)	2	1	B	B										
CAD基礎(設計)	2	1	B	B										
【専門教育科目(コース必修)】														
航空宇宙情報処理	2	2	A	A										
【専門教育科目(選択)】														
数分方法	2	2	S	A										
基礎物理	2	1	W	—										
航空工学基礎	2	1	S	A										
電気電子基礎	2	1	W	—										
電気電子応用	2	2	A	A										
航空英語(TOEIC)セミナー1	2	2	A	A										
ロボットプロジェクト入門1	2	1	A	A										
ロボットプロジェクト入門2	2	1	A	A										
【卒業要件に含まれない科目】														
基礎学力講座・国語	2	1	R	—										
基礎学力講座・数学	2	1	R	—										
基礎学力講座・数学	2	1	E	—										
【教職に関する科目(卒業要件に含まず)】														
教育原理1	2	1	B	A										

(成績評価基準) S:(100-90点) A:(80-89点) B:(70-79点) C:(60-69点) R:(認定科目) D:(保留) E:(59-0点) W:(履修中止) *:(現在履修中)

(取得単位数)

区	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
教養心	15	7	0	0	0	0	0	0	22
教養基	2	2	0	0	0	0	0	0	4
留学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学心	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学選	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	32	46	0	4	20	0	0	0	102
必修	15	7	0	0	0	0	0	0	22
選択	17	39	0	4	20	0	0	0	80
小計	32	46	0	4	20	0	0	0	102
卒業単位	15	7	0	0	0	0	0	0	22

(学年別取得単位数・GPA評価)

学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		合計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位	19	21	40	20	0	20											80
GPA	2.621	3.000	2.781	3.300													2.888

※卒業単位の計は卒業要件に含まれない科目(教職科目、20単位を超えた他学部・他学科の科目など)が除かれています。

「卒業要件に含まない科目」について
基礎学力講座・国語/数学は3年次終了までに「R」認定(合格)をもらわなければ4年次からの必修科目である卒業研究/ゼミナールⅣに着手できず卒業研究・論文に取りかかることが出来ません。

「取得単位数」
(上段)卒業するために最低限必要な単位数です。(他学科除く)
(下段)現在修得済みの単位数です。
卒業までに上段に対して不足がないよう修得しなければなりません。

科目の区分
「必修」・・・必修科目
*卒業までに修得必須な科目です。
「選択必修」・・・コース選択必修科目
*コースごとに異なります。
「必修」・・・必修科目
*コースごとに異なります。
「選択」・・・選択科目
*自由に選ぶ科目です。
「他学部」・・・他学部・他学科の科目で履修した科目です。
「選択」・・・経営経済学科のみ
*卒業するまでにどの区分の科目が何単位必要かは所属学科、コースなどにより異なります。

「学年別取得単位数・GPA評価」について
(単位)各学年での単位取得状況です。
(GPA)成績評価を点数に置き換え、平均した数値で、最高は「4.0」です。
GPAが低いと特待生継続審査に影響します。
(目安)各学年終了時の望ましい取得単位数です。

【注意事項】
*卒業には各区分に定められた必要単位数を満たす必要があります。成績通知書に示された取得単位数を参考にしてください。
*卒業要件に含まれる他学部科目、他学科科目の単位数は教養基礎科目、専門科目合わせて上段20単位までです。
(GPAに関して)
GPAの最高値は4.0となります。
(留学生に関する)
留学生に関する「留学生」「留学心」および「留学選」は、留学生が対象の科目です。
留学心の必要単位数と単位についても、留学生のみが対象となります。

※上段は各区分の必要単位数。但し、他学科履修は卒業要件に含まれる他学部・他学科科目の上段単位数。
※学年別取得単位数の計は卒業要件に含まれない科目(教職科目、20単位を超えた他学部・他学科の科目など)が除かれています。